

「都留市いきものふれあいの里」



「宝鉱山」周辺にはリスをはじめ、シカ、野うさぎなど多くの動物が生息しています

計画地は 「宝鉱山」周辺

わたしたちのふるさと都留市は水と緑に囲まれた自然豊かな環境に恵まれたまちです。まちから一歩はなれると、小動物や小鳥などを目の当たりに観察できる野原や山々が広がっています。この素晴らしい自然をより身近に、また自然保護という意味でも、その価値を再認識しようと、自然環境保全活動拠点整備事業として、『都留市いきものふれあいの里』整備計画が着々と進行しています。

計画地は大幡字高畑地内で、かつて「宝鉱山」として銅、亜鉛、硫化鉄を産出し、明治十七年以来閉山した昭和四十五年までの約百年間、関東有数の鉱山として栄えた地域です。最盛期には千人あまりの従業員や家族がここで生活をしていました。

北西には市内最高峰の三ツ峠山（二七八メートル）と鶴ヶ鳥山に挟まれた宝地区には様々な動物



昨年の12月12日には、この事業の核となる「ネイチャーセンター」の地鎮祭が執り行われ、都倉市長をはじめ、関係者出席のもと工事の無事を祈願しました。

が生息しています。例えば、モモンガ、ヤマメなどの比較的高所に住む動物たちもここでは近くの山にすんでいます。

『都留市いきものふれあいの里』はセンターゾーン、川のサテライト、森のサテライトの三つの大きなゾーンに分けられ、それぞれが自然観察路で結ばれます。

この中心施設となるネイチャーセンターは、自然の持つ美しい景観の中で、小鳥や小動物などとの出会いの場として、自然観察や自然体験など、自然学習を通じて、

環境の保全に対する知識と理解を深めるための自然環境保護教育推進の拠点となる施設です。このほか、観察塔・観察小屋等の観察施設、生きものの生息に適した自然環境の整備のための生態系保護施設、あずまやなどが、環境庁や県の補助を得て、二カ年計画で施設整備を推進していくものです。

また、宝鉱山が栄えていたころの娯楽施設跡地には、山村振興農林漁業対策事業で管理棟、簡易宿泊施設なども計画予定されています。